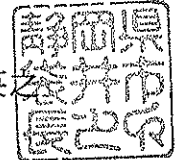




袋建設 第26号
平成19年4月27日

国土交通省道路局長殿

袋井市長 原田 英



中期的な計画の作成にあたっての意見について（回答）

戦後の我が国の目覚ましい産業の発展は、道路整備によって支えられてまいりました。道路特定財源による高速道路をはじめ国土を縦横に走る基幹道路網の整備は、国土を最大限に活用し今日の繁栄の礎を築いてきたものと言えます。

高度経済成長を促し、またこの経済成長に支えられてきた道路ネットワークの拡大傾向は、バブル崩壊後の厳しい財政状況や少子高齢化、人口減少など、今まさに逆風が吹いております。しかし、地方自治体が自立するためには地域産業の発展が必要不可欠であり、引き続き道路特定財源を確保する中で、産業振興に寄与する高速道路をはじめとする基幹道路網の整備促進を希望すると共に、特に次の事項について意見を述べさせていただきます。

1 慢性的な渋滞の早期解消

慢性的な渋滞は莫大なエネルギーの損失と二酸化炭素排出による地球温暖化など、経済活動だけでなく私たちの生活に与える影響は非常に大きいことから、早期に解消する必要があります。

本市を横断する国道1号も常に渋滞が見受けられ、沿道住民の健康、渋滞を避けた大型車の生活道路への進入など、市民生活への影響も大きく、渋滞解消の早急なる対策（高架・4車線化）が必要と考えます。

2 新東名高速道路の早期開通と東名高速道路とのアクセス道路の整備促進

すでに東名高速道路の交通量は飽和状態となっており、新東名の早期開通は沿線の自治体の悲願です。また、開通に併せ、新東名と現東名を結ぶアクセス道路の整備も急務であると考えます。

3 市道整備への支援

本市の市道整備の現状は、主要幹線道路については国の補助を受ける中、約8割の整備が完了していますが、その他の市道につきましては、整備率は5割弱、延長で約473 kmが未改良となっております。市の一般財源が大変厳しい状況から整備には大変苦慮しているところです。国の補助基準の弾力化と引き続き道路整備のための予算確保を強く望むものです。

4 道路整備と並行した治水対策

高規格道路等の道路敷は面積が非常に大きいことから、整備することにより雨水の流出量が増加し下流河川への影響が懸念されます。このことから、道路整備に合わせた治水対策についても考慮して頂くと共に現国道1号の高架下への調整池設置を検討して頂きたい。